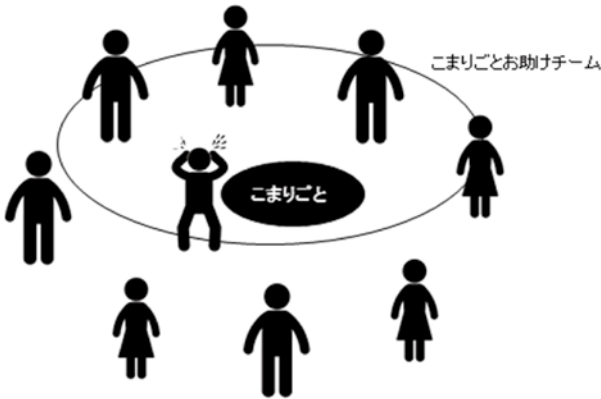


協同の発見

きょうどうのはっけん

「困りごと」を人をつなぐ力に



第290号 2017.1

特集

協同労働の仕事づくり ——だれもが地域づくりをする時代に

- ◎みどりの風が吹く「疎開」のまち智頭 酒本 和昌
- ◎飽くなき仕事おこしの追求 大谷 信一
- ◎「山村シェアハウス」の開設 「地域おこしは人おこし」 藤井 裕也
- ◎「困りごと」が人をつなぎ、「地域」をつくる 下村 朋史
- ◎都市における、持続可能な循環型地域づくりをめざして 浦上 航
- ◎すぎなみともいきプロジェクト 青柳 栄子
- ◎協同組合の使命は地域に自治をつくること「難民山主」に向き合う「山守り協同林業」を目指して 伊藤 剛

■海外レポート

第12回ICA-AP(国際協同組合同盟アジア太平洋)地域総会・関連会議に参加 田嶋 康利

■会員だより

福島県浪江町 原発被災地で実りの秋～稲刈りからお米販売へ～(Vol.3) 杉田 大

■ワーカーズコープで働く若手リーダー紹介(8回目)

北田 千恵(和歌山高齢者生活協同組合)

■書籍紹介

貧困児童 子どもの貧困からの脱出 加藤彰彦 著 株式会社創英社/三省堂書店 発行 相良 孝雄

■巻頭言

協同組合のアイデンティティとケイパビリティ 松岡 公明

一般社団法人 協同総合研究所

JAPAN INSTITUTE OF CO-OPERATIVE RESEARCH

題字／藤原 桂州

■ 巻頭言

- 協同組合のアイデンティティとケイパビリティ
松岡 公明(農林漁業団体職員共済組合(農林年金)理事長) 2

■ 特集

- 協同労働の仕事づくり——だれもが地域づくりをする時代に
 ・みどりの風が吹く「疎開」のまち智頭
 酒本 和昌(鳥取県智頭町企画課) 6
- ・飽くなき仕事おこしの追求 ～つながりゆく事業、いもづる式の事業拡大～
 大谷 信一(センター事業団鳥取地域福祉事業所さんいんみらい所長) 14
- ・「山村シェアハウス」の開設 「地域おこしは人おこし」
 藤井 裕也(特定非営利活動法人 山村エンタープライズ代表) 21
- ・「困りごと」が人をつなぎ、「地域」をつくる
 下村 朋史(センター事業団 北海道事業本部 副本部長/会員) 24
- ・一都市における、持続可能な循環型地域づくりをめざして—
 新宿協同集会2016開催までの経過と、今後の取り組みについて
 浦上 航(センター事業団 東京中央事業本部 事務局次長) 30
- ・すぎなみともいきプロジェクト ～社会連帯から社会連帯事業の仕事おこし～
 青柳 栄子(センター事業団 東京北部事業本部 事務局長/会員) 36
- ・協同組合の使命は地域に自治をつくること
 「難民山主」に向き合う「山守り協同林業」を目指して
 伊藤 剛(センター事業団 西日本本部 事務局長/会員) 41

■ 海外レポート

- 第12回ICA-AP(国際協同組合同盟アジア太平洋)地域総会・関連会議に参加
 田嶋 康利(日本労協連 事務局長(国際部長)) 57

■ 会員だより

- 福島県浪江町 原発被災地で実りの秋 ～稲刈りからお米販売へ～(Vol.3)
 杉田 大(センター事業団総務部・広報部/会員) 64

■ ワーカーズコープで働く若手リーダー紹介(第8回)

- ワタシ流、輝いて働くというコト ～自己受容と世界信頼と他者貢献感を高める～
 北田 千恵(和歌山高齢者生活協同組合ケアセンターおたっしゅ倶楽部和歌山ケアプランセンター 所長) 67

■ 書籍紹介

- 貧困児童 子どもの貧困からの脱出
 (加藤彰彦 著 株式会社創英社/三省堂書店 発行)
 相良 孝雄(協同総合研究所 事務局長) 72

- 労協連だより 田嶋 康利 76

- 研究所だより 協同総研一同 78

巻頭言

協同組合のアイデンティティとケイパビリティ

松岡 公明(農林漁業団体職員共済組合(農林年金)理事長)

government of the people, by the people, for the people, shall not perish from the earth.

アメリカのリンカーン大統領が1863年にゲティスバーグで行った演説における「人民の、人民による、人民のため政治」という言葉は、民主主義の基本、体現としてあまりにも有名である。

マッカーサーはGHQ憲法草案前文にこのリンカーンの言葉を織り込んだ。of the peopleのofの訳については、単純な「~の」ではなく、日本国憲法の前文にあるように、「国政は、国民の厳粛な信託によるものであって、その権威は国民に由来し、その権力は国民の代表者がこれを行使し、その福利は国民がこれを享受する」という意味において、「政治の権限は人民自身に由来する」という、どちらかと言えば日本語的にはfrom的な意味合いで解釈すべきとする論もあるようだ。ofが由来、起源を表すとすれば、国民自らが国政をつくりあげるといふ独立宣言の思想とも連なる。国会の数

を頼んでやりたい放題、国民の信託の重さが分っていない為政者に肝に銘じてもらいたい憲法の前文である。ちなみに、決して民主主義国家とは思えない、かの中国では、この演説の訳は「民有、民治、民享の政府」となる。いっそ、こちらが分りやすいか？

しかし、一般的に、この演説のshall以下の後半部分の「地上から消滅させてはならない」という件はあまり語られない。「地上から消滅させてはならない」といえば、昨年11月30日、ユネスコは、「共通の利益の実現のために協同組合を組織するという思想と実践」について無形文化遺産への登録を決定した。19世紀にイギリスやドイツで生まれた協同組合の思想と実践は、全世界に広まり、現在、100か国以上で約10億人、日本においては6500万の組合員が協同組合に参加している。世界では、協同組合の憲法規定を有する国が51か国に及ぶ。日本でも、農林漁業協同組合、生活協同組合、労働者協同組合などそれぞれにおいて多様な事業・活動を展開、社会問題の解決、地域社会の発展に貢献している。

「無形文化遺産」は、「世代から世代へと伝承され、社会及び集団が自己の環境、自然との相互作用及び歴史に対して絶えず再現し、かつ、当該社会及び集団に同一性及び継続性の認識を与えることにより、文化の多様性及び人類の創造性に対する尊重を助長するもの」とされる。まさに、協同組合の思想と実践は、人類の財産であり、その存在の普遍的意義について国際社会が評価したのである。

しかしながら、日本での評価は芳しくない。2013年に登録された「和食」の場合は、マスコミも挙って取り上げ、大きな話題となったのに。特に、昨今の執拗な農協バッシングにみられるように、政府やマスコミの協同組合に対する無知、無理解、さらには無視は止まるところを知らない。経済成長戦略にとっては株式会社企業こそが有利であって、協同組合はむしろ足枷というか、邪魔な存在としてみなされているかのようだ。そういえば、2012年の「国際協同組合年」のときも政府は冷淡であった。世界の協同組合運動への共感や評価に対して、まったくもって真逆の動きである。

「私助」「公助」の限界と課題が明らかになるなかで、福祉・子育て・教育・雇用・防災・環境・再生可能エネルギー問題などを切り口にした「共助」「協同労働」「住民自治」による地域づくりの総合的なデザインが課題となっている。また、ピケティ法則による富の蓄積と集中、格差と不平等、差別と分断がすすむ社会にあって、経済的民主主義、ひいては経済的公正をいかに実

現していくかが世界的な課題となっている。

協同組合は地域社会の一つの「器」である。その「器」の特性・本質は、自治と相互扶助を基本に、参加・平等に基づく民主主義、教育、地域社会への配慮などを運営原則とする。原則は協同組合のアイデンティティでもある。民主主義は教育システムでもある。これらの原則に基づく組織運営は、組合員の潜在能力を引き出し、創造力を育み、コミュニティ、地域社会の組織的エンパワーメントへ連鎖、波及していく。まさに、人間やコミュニティの潜在能力、可能出力すなわちケイパビリティの向上につながる。そして、そのケイパビリティが人間の成熟、社会的問題の創意工夫ある解決能力・機能ベクトルを引き出していくことになる。

このたびのユネスコ登録を契機に、協同組合のアイデンティティとケイパビリティの正の関係、相互作用、相乗的サイクルこそ自覚的に再認識すべきではないか。もっと敏感になるべきではないか。協同組合運動による人のつながりや相互扶助、協同労働の関係性が地域コミュニティの新たなデザイン力となっていだろうか。それこそ、協同組合の社会的「器」としての役割である。

ここで、本来の民主主義と協同組合はじめ社会的連帯セクターがそれぞれ基本理念(価値観)を共有しながら、地域に根ざしてしっかりと踏ん張っていかなければ、劣化する政治と市場原理主義の暴走に歯止めがかからない。

協同総合研究所は、労働者、市民が自らの力で自律的に仕事と生活の豊かさを求める活動を支援するシンクタンクです。わが国にも「大量失業の時代」が到来する中で、労働者、市民が自主的に仕事おこしをする労働者協同組合(ワーカーズコープ)への注目が増えています。研究所は、わが国唯一の「労働者協同組合」に関する専門研究機関です。



研究活動をネットワークし、蓄積された情報を資源として支援する「協同の発見」を会員のみなさまに毎月お届けいたします。